

Voice

佐藤助庵の茶と芸術

2024 12/7 (Sat) — 2025 2/16 (Sun)

休館日 12/18, 12/28 — 1/4, 2/13
 開館時間 9:00 — 17:00 (入館は16:30まで)
 観覧料 大人210円(団体170円)、高校生以下無料
 主催 富山市教育委員会(富山市佐藤記念美術館)



床／佐藤助庵筆《白寿齋一行》、茶室／助庵
 ※茶室は外からのみご覧いただけます。また、掛け軸は期間中展示替えがあります。

佐藤助庵の茶と芸術

当館の創設者である佐藤助庵（佐藤家 12 代目 助九郎、1896-1979）は、現在の富山県砺波市に生まれました。実業家として、家業の土木建設業を継いで大きく発展させ、さらには県内企業の役職にも就き、その腕を振るいました。また戦前には貴族院議員をも務め、富山の政財界の要として活躍したのです。その一方で、助庵は茶と芸術を愛した風流人でもあります。茶の湯に関連した古美術品を中心に蒐集し、自身でも書画や漢詩、俳句をよくしました。60 歳を過ぎてから、富山市の呉羽山麓に「呉山窯」を築き、やきものにも取り組んでいます。また、茶は裏千家に学び、北陸初となる今日庵老分に任じられ、14 代淡々斎より「宗越」の茶名を頂戴しました。さらに日本を代表する実業家であり、近代の三大茶人と称される松永安左エ門（号・耳庵）を師として慕い「助庵」という号を頂き、終生用いています。

こうして実業家として活躍しつつ、茶や芸術にも造詣が深かった助庵は、蒐集した美術品や茶室を公開する財団法人佐藤美術館を、昭和 36 年に富山城址に開館させました。その後は精力的に展覧会を開催し、趣旨や作品の解説などを本人が執筆して小冊子にまとめたほか、新聞や雑誌などにも茶や芸術に関する独自の考えを寄稿しています。

本展では、助庵ゆかりのさまざまな美術品を彼の語った言葉とともにご紹介します。茶と芸術こそが人々の心を明るく照らすと信じた助庵。その実像に迫ります。



石山切 貫之集下 藤原定信筆
平安時代



消息 徳川家康宛 豊臣秀吉 桃山時代



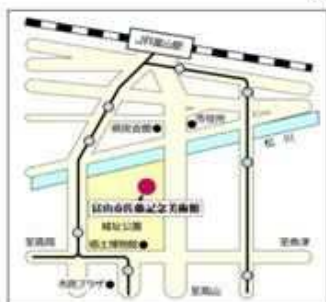
越中瀬戸焼耳付茶入 江戸時代



呉州染付山水文水指 明時代末期



青磁袴腰香炉 南宋～元時代



【学芸員による解説会】

12月15日（日）、1月19日（日）、2月11日（火・祝）

いずれも 13:30 より 会場：当館展示室 ※事前申し込み不要、要観覧料

【交通案内】

- 富山駅から徒歩 10 分 ■市内電車「国際会議場前」下車 徒歩 3 分
- 地鉄バス「城址公園前」下車 徒歩 2 分 ■富山空港より連絡バスで 20 分
- 北陸自動車道 富山 I.C.より車で 15 分

◎当館に駐車場はございません。最寄りの駐車場（有料）は城址公園地下駐車場です。